

1 単元 司法権の独立と裁判

2 目標

- ・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることに興味をもち、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて、理解を深めようとする。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- ・憲法で保障された、司法権の独立と法に基づく公正な裁判に関わる課題についての資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用することができる。  
(資料活用の技能)
- ・法に基づく公正な裁判によって、国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解し、その知識を身に付けることができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 指導に当たって

(1) 生徒の実態（在籍 男子\*人 女子\*人 計\*人）

<実態調査>平成\*年\*月\*日 \*人実施

1	裁判所に行って、実際の裁判の様子を見てみたいと思いますか。 はい *人 いいえ *人
2	裁判員制度を知っていますか。 はい *人 聞いたことはある *人 いいえ *人
3	自分で考えたことを文章に表現することは得意ですか。 得意 *人 ふつう *人 苦手 *人
4	海と山のどちらが好きか。また、それはなぜか。 双方のことに触れて、または双方を比較して、理由を述べている。 *人 一方のことだけに触れて理由を述べている。 *人

実態調査から、裁判を傍聴したいと答えた生徒が多く、裁判に興味を持っている生徒が多いことが分かる。テレビドラマなどの影響もあると思われる。しかし、裁判に興味を持っていても、裁判員制度について、聞いたことはあっても、どういう制度か説明できた生徒はわずかである。また、自分の意見をまとめ、根拠を明確に表現することができる生徒はまだ少なく、抵抗を感じている生徒も見られる。

(2) 単元観

本単元は、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判を受ける権利が保障されていることを理解するとともに、個人の人権を保障するために三権分立の原則があることや、三権が均衡を保ち、それぞれの役割を果たしていくことの重要性に気付くことをねらいとしている。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、生徒の興味・関心を喚起するような具体的な事例を取り上げながら、裁判のしくみや三権分立の原則の考え方に気付かせたい。《\*中学学習スタイル④－視覚化・焦点化》そして、グループでの話し合いで他者との意見交換をすることで、思考を広げたり、深めさせたりして、自己の意思決定をさせていきたい。《\*中学学習スタイル③》そして、学級全体での交流を通して、多様な考え方があることに気付かせたい。《\*中学学習スタイル④－共有化》これらの活動を通して、根拠を明確にして自分の考えを表現できるようにさせたい。

4 学習計画及び評価の観点（8時間扱い）○が本時

次	時	学習内容及び活動	関	思	技	知
一	1	新聞記事やインターネットなどを活用し、行政裁判に関する情報を収集して、その特徴や意義などをまとめる。			○	
二	2	民事裁判との比較を通して、刑事裁判の特徴をまとめる。		○		
三	3	三審制の意義や、被疑者・被告人の権利を守るためのさまざまな制度について理解する。				○
四	4	司法制度改革の課題と、これからの司法制度のあり方について考える。		○		
五	5	裁判に対する興味や関心をもって、模擬裁判を行う。	○			
	6	模擬裁判を視聴して、事件の内容を整理する。			○	

	⑦	模擬裁判を通して、証言や資料を基に自分の判断を分かりやすくまとめ、主文を作成する。		○		
六	8	三権分立のしくみに基づく司法権の独立の意義を理解する。				○

5 本時の学習

(1) 目標

模擬裁判における証言や資料から自分の考えを主張するとともに、最終判断の中で周囲の考えを基に深化・発展させて主文を作成することができる。 (社会的な思考・判断・表現)

(2) 人権教育の視点

グループでの話し合い活動で互いの意見を聞き合い、自己の意思決定をしていくことにより、本校の人権教育の視点⑤「協力し合いながら行動する」に迫りたい。

(3) 準備・資料

ワークシート、自己評価カード、補助資料、主文の書き方例(掲示用)、ヒントカード

(4) 展開

※は人権教育の視点との関連

学習内容及び活動	指導上の留意点(評は評価)
1 復習チェックを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの既習事項の確認を行い、本時の学習につなげる。《*中学学習スタイル②》</li> <li>・<b>実物の裁判員候補者登録通知書を提示することで、生徒の意欲を高める。</b> 《*中学学習スタイル④-視覚化》</li> <li>・前時に視聴した模擬裁判の内容を簡単に整理し、本時の学習につなげる。</li> <li>・本時の学習のイメージを持たせられるよう、主文の例を読み聞かせる。</li> <li>・補助資料を配付し、それを参考に判決を考えるよう伝える。</li> <li>・判決及び量刑の理由を書く際には、証言や資料を基に根拠を示すよう指示する。</li> <li>・とまどっている生徒には、事件のポイントを整理したヒントカードを提示し、それを参考に考えるよう助言する。</li> <li>・話し合いでは、個人で考えた意見の根拠を明らかにして発表するよう指示する。《*中学学習スタイル③》</li> <li>・意見が異なる友達の考えの根拠を聞くことで話し合いを深めるよう助言する。</li> <li>※グループのリーダーを中心に一人一人の考えを大切にしながら話し合うよう助言する。</li> <li>・<b>グループ協議の結果を発表させることで、全体での意見交流をする。</b>《*中学学習スタイル④-共有化》</li> <li>・全体での話し合いを基に、もう一度自分の意見を整理し、裁判官として主文を作成するよう伝える。</li> <li>・掲示した書き方例を参考に主文を作成させる。</li> </ul>
2 裁判員制度について確認する。	
3 模擬裁判の内容をふり返る。	
4 本時の学習課題を確認する。 裁判官として、模擬裁判の主文を作成しよう。	
5 裁判官として、判決を考える。	
(1) 個人で考える。	
(2) グループで協議する。	
(3) 全体で話し合う。	
(4) もう一度個人で考え、最終判断し、主文を作成する。	
6 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の学習計画に自己評価を行い、本時を振り返って、次時の学習への意欲付けをする。</li> </ul> <p>評：証言や資料を基に、自分の考えを主張するとともに、最終判断では、周囲の考えを基に深化・発展させて主文を作成することができる。(観察、ワークシート)</p>